

# 人権なら

2024年12月1日

第168号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

## 地域交流を深め人権文化の町へ

### 400人余が集い、第30回生き生き交流祭

第30回生き生き交流祭が11月10日、三宅町文化ホール、交流まちづくりセンター、同広場を会場に催された。

400人余が集まった＝写真。



午前10時にオープニング。古川友則・実行委員長と森田

浩司・三宅町長があいさつ。そのあと、「キャンディークワン」がK-POPを、「フラワーフィッシュ」がストリートダンスを披露。会場はいっきに盛り上がった。

ホールでは、幼児・園児や小学生たちの絵画の展示、介護事業所「菜の花」と「ぼかぼか」の紹介展示があった。ひまわりの家のメンバーはバザーを行った。

### カンボジアカレー、インドネシアラーメンも出店

会場には多くの出店が並び、おでん・焼きそば・手作りソーセージ・ちぢみ・み

たらしなどのほか、カンボジアカレー、インドネシアラーメンも販売。バルーンア



ートやスーパーボールすくいも加わり、賑わった。

午後は「文化交流」。オープニングは式下中学校の吹奏楽部14人の演奏＝写真。続いて、フリージャーナリスト、西谷文和さんの講演「紛争地から見た平和憲法、ガザ・ウクライナ・アフガニスタンの今」があった。進行は古川沙樹さんが務めた＝写真。

### 西谷文和さんがパレスチナの歴史・現状を報告

西谷さんは現地取材の映像を紹介しながら、パレスチナとイスラエルとの歴史的経過と現状を報告。一旦、

戦争になれば、終息は難しい。トランプが米国大統領になり、イスラエルはますますガザ攻撃を強める。これ以上の犠牲者を増やしてはならないと訴えた。



このあと、幼児・園児の「わくわく楽しい音楽会」、ひまわりの家と太鼓チーム「コスモス」の演奏、エイサーチーム「ちゅらら〜」の創作エイサーが次々と披露された。

### 劇団「かいほう塾」が「60歳のラブレター」熱演

ラストは劇団「かいほう塾」が創作劇「君に伝えたいこと～60歳のラブレター

より～」を熱演＝写真。小学2年までしか学校に行



けず、字を書けないまま成人。定年後、春日夜中に通い、妻にラブレターを書くことを目標に字を覚えた西畑保さんの生きざまを演じ、大きな拍手を浴びた。

\*\*\*\*\*

## 入所者の文化活動に触れる

### 長島愛生園・邑久光明園文化祭に参加し交流

岡山県長島にある2つのハンセン病療養所で11月3日、文化祭があった。

架け橋の会や、桜井・高田・上牧の教員ら20人が訪問した＝写真。



長島愛生園では、入所者から48年間も陶芸に打ち込んできた思いを。邑久光明園では、「書」や陶芸作品を始めた経緯や苦労話を聞いた。

入所者の文化活動は閉ざされた療養所から社会へと繋がる強い思いや、人生を表現する営み。今回の訪問でそうした入所者の人生に触れることができた。

## 奈良町南部の歴史・文化を学ぶ

### 田原本町企業内人推協がフィールドワーク

田原本町企業内人推協が11月8日、「奈良町南部の歴史と文化を訪ねて」をテーマにフィールドワーク。奥本武裕さん(天理大学講師)が案内した。

日本聖公会奈良基督協会(写真)は1887(明治20)年に奈良英和学校を創設。被差別部落出身の米田庄太郎少年は同学校でアイザック・ドーマン牧師と出会った。その後、ドーマンの支援を受け、コロンビア大学に留学。社会学を学び帰国。1920年に京都帝国大学の教授となり、日本における社会学の基礎を築いた。



### 江戸時代の古い町屋が残る庚申堂周辺

元興寺は飛鳥にあった法興寺(飛鳥寺)が平城京遷都に伴って移転。僧房の一つ極楽坊は奈良時代創建当初の建物だ。国宝に指定されている。

江戸時代の古い町屋が残る庚申堂(写真)周辺は「ならまち」観光の中心。住民の信仰の核で町屋の軒先に掲げられている「身代わり猿」は庚申堂の青面金剛(庚申)の使い猿をかたどったものだ。



木辻遊郭跡・誕生寺を訪れたあと、鎮宅霊符神社へ。神社は陰陽町に居住していた陰陽師が信仰。

### 製墨(せいぼく)の古梅園は1577年に創業

古梅園へ。墨(油煙墨)は興福寺の燈明の煤(すす)を集めて膠(にかわ)と合わせ固めて作ったのが最初という。店は天正年間(1573~92)に松井道珍が創業したと伝わる。製墨に必要な膠は動物の皮や骨を煮出して抽出・精製される接着剤だ。

「細工」と呼ばれた人々が鎌倉時代、春日大社に膠を納入していた記録が残る。「細工」は中世奈良で「穢多」(のちの被差別部落)の別称として用いられた。

## 融和運動と部落女性

### 関大人問研の講座で宮前千雅子研究員が報告

関西大学人権問題研究室の公開講座が11月22日にあった。宮前千雅子・研究員が「融和運動と部落女性」と題して報告した=写真。



宮前さんは近代部落運動に部落女性が登場しないことに違和感を持ち、研究を進める。近年、融和運動への再評価が進む。水平運動と反目するものではなかった。時期や地域に違いはあるが、両者は補完し合うことも。

### 社会との融和を目指した官民合同の運動

そもそも融和運動とは「大正~昭和戦前期、部落差別の原因を社会一般の側にも求め、部落の改善に加えて社会との融和の実現を掲げて官民合同で行われた運動」だ。融和運動と部落女性の関わりは、どのようなものだったのか。どのような意味を持つのかと。

1922年に水平社創立。翌年、全国婦人水平社設立。1925年に中央融和事業協会が設立される。

1920年代後半には女性の融和を図る講習会があった。でも、全国的な動きは1930年代に入ってから。1931年に京都で第1回婦人融和指導者講習会。そのとき、全国婦人融和連盟が結成される。

### 体制内運動だったが社会制度に問題の視座も

融和運動における女性観はどうか。「融和時報」などに掲載の延べ30数人の文章から読み解く。差別的、融和的なものもある。部落女性の投稿も。「内部の女性に捧ぐ」と題し、「私達は今、憤然と起たなければならぬ時期に当面して」いるとの檄文も寄せられている。

融和運動は体制内運動だったが、部落差別は社会制度に問題との視座も表れた。運動に参画する部落女性、講演会に参加して意識変革する女性もいた。

融和運動はやがて戦争に参画していく。今後は戦時下の文献資料を読み進めたいと語った。

## 櫛本-和爾氏の故地を歩く

### 県民歴史講座で櫛本界隈をフィールドワーク

第4回県民歴史講座が11月12日にあり、「櫛本-和爾氏の故地を歩く」をテーマにフィールドワーク。同和問題関係史料センターの竹中緑さんが案内した。

この地域は古代には豪族和珥(わに)氏の影響下に。中世には奈良盆地と大和高原を東西に結ぶ高瀬街道が交差。古くから交通の要衝となり人と物資の集散地となった。



1889年に櫛本村と周辺5か村が合併。櫛本町に。1898年には桜井-京終間に鉄道(現JR桜井線)が通じ、櫛本駅が設置された。

高良神社(長寺跡)は地の小字を「長寺」と言う。発掘調査で瓦や柱跡が出土。奈良時代に長寺と呼ばれた寺があったと考えられる。この地域を含む奈良盆地北東部周辺は渡来系氏族が多く居住していた。

### 交易で荷を運ぶ牛や馬をつないだ「馬つなぎ」

檜神社(写真)境内には江戸の歌舞伎役者8代目市川團十郎と、その父海老藏が1848年に奉納した井戸がある。



上街道から高瀬街道に沿って東へ伸びた所を「馬出」と呼ぶ。馬つなぎと呼ばれる棚を残す民家(写真)がある。交易で荷を運ぶ牛や馬をつないだ。大和高原から薪炭を積んできて、食料品や日用品を買って帰った。

大和高原と盆地部の間では、江戸時代から1955年まで農耕に使用する牛を交換する慣行が続いた。盆地部の農家が所有する牛は大和高原の農家に預ける「預け牛」だった。大正時代からは高原の農家が貸し出す「貸し牛・賃牛」へと変化した。

幕末には草場権を持たない部落住民による牛馬の売買(博労)が活発になる。「牛馬救場所」の設置を求める史料も残る。このほか、和爾下神社、柿本寺跡、在原神社、大興寺など、興味深い史跡も訪ね回った。

## 実態調査から部落を見る

### 特措法時代の調査は属地属人主義で実施

部落問題全国交流会の事務局会議が10月27日、京都市内であった=写真。

石元清英・関大名誉教授が国勢調査を活用した「部落」の実態把握調査について問題提起した。

戦前の調査は治安・滞納・不就学対策を念頭に部落改善事業を行うためのものだった。1907年の内務省調査では全国5470地区、部落民79万9434人と。

同和対策審議会が1963年、答申のために「同和地区全国基礎調査」を実施した。特別措置法下の実態調査は属地属人主義で行われた。

### 生活実態の低位性は部落差別の厳しさなのか

1970年代の調査では中高年齢層の低位性が顕著だ。若年層での格差は小さい。1980年代は部落内外の格差が縮小傾向に。若年層・高学歴層での格差は消滅。1990年代では20代後半から30歳代の安定層が流出したため、不安定層の割合が高まった。

2010年の国勢調査から見た大阪市の部落の特徴は公営住宅(市全体)に住む人の特徴と重なる。2020年の尼崎市の調査では、6か所ある同和地区の中でも公営住宅が多い部落ほど、高齢化率が高く、完全失業率が高い結果が出ている。

生活実態の低位性は部落差別の厳しさだと強調されてきた。だが、部落の特徴というよりも公営住宅の特徴であるということが、調査の結果、明らかとなった。

### 部落に関わる情報量の少なさが差別偏見に

部落外の人には「部落は何か違う。関わるとトラブルに巻き込まれてしまう」と思っているという調査結果がある。このことについては、これまで部落に関わって議論する機会がなかったことなど、情報量の少なさがあったのではないかと提起した。

このあと、参加者が意見交換。公営住宅の歴史や部落問題に関わる話題を語り合った。



## 「もしも」の時のセーフティネット

### 「労働保険」加入は義務です。至急に手続きを

労働保険は労災保険(労働者災害補償保険)と雇用保険の総称です。常勤、パート、アルバイトなどの名称や雇用形態にかかわらず、労働者を一人でも雇っている事業所は、加入手続きを行う義務があります。



NPO法人なら人権情報センターは、被差別部落内外の零細事業者と従業員の「もしも」に備えるため、1981年に厚生省の認可を得て、労働保険事務組合事業を行ってきました。現在、60社の事業所と、「一人親方」の20会員から「委託」を受けています。

### 「日頃の安全点検」と「労働保険」加入が重要

労働保険加入の手続きがまだの事業者は、労働保険代行組合を通じて一日も早く手続きしてください。

当法人の労働保険会員内で昨年、全治9か月の重傷事故を含む3件の労災事故が起きました。

### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

米国大統領選でトランプが勝利した。選挙戦では情報操作や、誹謗中傷、虚偽、差別発言を連発。それでも大統領に選ばれた。米国世論は二極化。修復し難いまでの分裂状態に。経済不安、移民流入に対する不満が白人労働者階級をはじめ、多くの人々に鬱積。その解決をトランプに委ねた。だが、トランプの世界観は危うい。「米国を再び偉大な国に」と叫び、米国第一、移民規制を掲げる。政権の人事は縁故で固める。自らの起訴事案も無罪放免。結果、民主主義も司法も弱体化。差別排外、人権侵害はますます蔓延りそう。世界は混沌とし、文明の終焉に繋がる危機が到来するやも。日本には軍拡要求の圧力が一層強まろう。米国追随(従属)関係は断絶すべきだ。

今年に入ってから、8月に自動車業者で車両と建物に挟まれる労災事故、10月には釘打機から発射された釘が大腿部に突き刺さる労災事故と、2件もの労災事故が発生しています。8年前には建設業者で死亡事故も起きています。

### 当NPO運営の「労働保険代行組合」で手続きを

日頃からの労災防止対策と、労災後の補償対策としての労働保険加入がますます重要となっています。

労働保険に未手続の事業者は今すぐ、加入手続きを行うようにしてください。

問い合わせは奈良県労働保険代行組合(NPO法人なら人権情報センター内):0744-33-8585へ。

\*\*\*\*\*

## 志都美周辺の史蹟を巡見

### 反差別・人権交流センターがフィールドワーク

反差別・人権交流センター「絆」は11月16日、「志都美周辺を歩く」をテーマにフィールドワーク。

案内は吉田栄治郎さん。13回目となる今回は17人が参加した=写真。



武烈(ぶれつ)天皇陵、平野塚穴山古墳、上牧地域を巡見。武烈天皇の陵墓は明治時代に治定されたが創作されたもの。上牧地域は人権教育に尽力した松浦勇太郎や、部落の環境改善に力を注いだ服部安司・元郵政相の出身地。また、小作争議を指導中の米田富が右翼暴漢に背中を切られ重傷を負った地でもある。終了後、昼食しながら、交流した。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223  
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1  
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833  
E-mail:info@nponara.or.jp  
http://www.nponara.or.jp/